

# 高温対策改善によるトマトの裂果被害軽減

大津・南部農業農村振興事務所農産普及課

## 【普及活動のねらい・対象】

近年、地球温暖化による農業生産への影響が問題になっています。中でも、夏場に収穫シーズンを迎えるトマト栽培では、7～9月の高温期に、強い日射を受けた果皮が硬化し、そこからヒビが入って果実が裂けて商品価値が低下する「裂果」という症状が全国的に問題になっています。

対象者は、本県開発の少量土壌培地耕のトマトを17aのハウスで年2作栽培し、夏場の裂果対策として、内張り遮光資材や扇風機を導入していましたが、十分な効果がありませんでした。

## 【普及活動の成果】



遮光資材を外張設置したハウス

表. 裂果発生率の変化

作型	H22年	H23年
半促成栽培（6・7段目）	75%	12%
抑制裁培（1段目）	50%	45%

でした。対象者は、次年度もこの技術と今年合わせて行った裂果し難い品種の試作結果を活用して経営改善につなげたいとのことでした。

### （1）活動の経過

高温対策の改善策として次の3つを提案し、半促成および抑制裁培で導入し、裂果の発生率や収量の変化を調べました。

- ①遮光方法を内張りから外張りに変え、ハウス内気温の上昇を防ぐ。
- ②給液回数を増やして皮伸びを良くし、裂けにくくする。
- ③皮が硬く割れにくい品種の試作。

### （2）活動の成果

上記改善策により、裂果の発生率は、左表のように改善され、生産者が目標としていた数値を概ねクリアできました。なお、最も効果があったのは、②の給液回数の増加でした。

経営的には対象とした半促成の6・7段目と抑制の1段目において、優品収量が増加し、売り上げが約45万円/10a増えました。なお、今回の外部遮光資材の費用は約15万円/10a